キリスト教たんぽぽ教会　待降節第一礼拝宣教ガイド　2020/11/29

「待ち望む訓練」
（ヘブル人への手紙10章35節～39節）

牧師：原　雅幸

序）「待ち望む」ことが消えていく社会で

・早い方が便利で助かるという時代。「待つ」ことに積極的な意味を見出すことが消えている。しかし、速さを追求する先に、幸せはない。

1）「待つ」ことをやめる誘惑の中で～確信を投げ捨てるな！～

・ヘブル書の読者たちは「待つ」ことをやめる誘惑に晒されていた。

・「来るべき方」＝救い主イエス・キリスト
・ヘブル 9 章 28 節「キリストも、多くの人の罪を負うために一度ご自分を献げ、二度目には、罪を負うためではなく、ご自分を待ち望んでいる人々の救いのために現れてくださいます。」
・聖書は旧新約一貫して「キリストを待ち望む」もの。旧約聖書は初臨（クリスマス）を待ち望む中で書かれ、新約聖書は再臨を待ち望む中で書かれている。アドベントは、旧約で救い主を待ち望んだ人々に思いを馳せつつ、クリスマスという行事の準備をするのでは足りない。

2）「確信」がもたらす「報い」

・「あなたがたの確信」＝ヘブル 1 章 1 節～3 節の言葉（旧約聖書で語られてきた神ご自身が、御子イエスとしてこの世界に来られ、十字架の死によって人の罪をきよめる道を開き、よみがえって神と人をつなぐ存在となり、そこで今も生きて私たちのために働いておられること。）
・この確信を持ち続けるなら「報い」を受けられる。（やがて、ではなく「今」）
⇒どんな「報い」か。待ち望むことによって、たましいが強く美しいものへと造り変えられるという報い。これが私たちを幸せにする。
・報いの中でも「忍耐」（簡単に挫けない心、欲望が満たされなくても暴れない心、積極的にしなやかに状況改善ができる能力）が伸びていく。

3）待ち望んだ人ハバククの例

・ハバククは、迫りくる脅威の中で、神に、早く行動することを迫った預言者。そんな彼に与えられた言葉が、ヘブル書に引用されている。
・神との関係がまっすぐにされた（義）人は、何かが起こらなくても信仰＝信頼関係（≒待ち望むこと）で十分生きていける。前進できる。
・「たましいを所有する」＝永遠に価値のある生き方ができる。

結）待ち望む訓練への招き

・再臨に希望（未来は明るい！）を置き、今を主への信頼をもって歩もう。

キリスト教たんぽぽ教会　こども礼拝ガイド　2020/11/29

名前（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① 旧約聖書を書いた人たちは何を待っていましたか。

② 新約聖書を書いた人たちは何を待っていますか。

③ おいしいスープをつくるには、何をかけなくてはいけないでしょうか。

○○○

④ 待ち望むことで、身に着く力はどんな力ですか。

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

＊「神さまのタイミングは完璧」という経験があったら教えてください。

みんなで一週間考えてこよう！

～教会クイズ（教理問答）～

Q029　「天に昇り」とは、どういうことですか。

A029　イエス様は□□□をもって天に昇られたということです。
それはわたしたちが、□□□イエスさまと
□□□□にいるためです。

🕮ヒント🕮　マルコ 16:19-20、ルカ 24:50-53、ヨハネ 14:2-3、14:16-19、使徒 1:6-11、エペソ 4:8-10